

令和2年11月15日/毎月1回15日発行

医師と医師会を結ぶ情報紙

都医 NEWS

Vol. 657

| | |
|------------------|----|
| 東京都医師会 定例記者会見 | 01 |
| 底流/地区医師会長連絡協議会報告 | 02 |
| みどりの広場 ほか | 03 |
| ふれあいポスト | 04 |
| 感染症豆知識 ほか | 05 |
| 地区医師会長からの一言 | 06 |

発行所 ■公益社団法人 東京都医師会 〒101-8328 千代田区神田駿河台2-5 TEL.03-3294-8821(代) 定価 ■1部70円(税別)



新宿区 花園神社の酉の市

撮影：大畑隆郎(板橋区医師会)

東京都医師会 定例記者会見



猪口副会長

新型コロナウイルス専門病院
猪口正孝副会長は、新型コロナウイルス専門病院の必要性を改めて強調し、アメリカの病院船のように、平時はシミュレーショントレーニングセンターとして訓練に活用し、有事に

新型コロナウイルス感染がメタルヘルスに及ぼした影響
平川博之副会長は、自粛明けの6月以降、若年者や40歳未満の女性の自殺者数が増加しており、新型コロナウイルス感染症がメンタルヘルスに影響を及ぼしていることに触れ、今後も各相談機関をバックアップ



川上理事

この冬は、愛と、希望と、予防接種
冒頭で、インフルエンザ予防接種の実施、適切な医療機関の受診、かかりつけ医を持つこと等、尾崎治夫会長が今冬の新型コロナウイルス対策を解説した動画「この冬は、愛と、希望と、予防接種」をホームページで公開していることを紹介した。

さらに、高齢者を新型コロナウイルスから守るために、家族に高齢者がいる場合は引き続き外食や懇親会等への参加に注意するよう訴えた。

また、季節性インフルエンザ流行期におけるかかりつけ医対応の目安を示し、全医療機関が総力を挙げて今冬の新型コロナウイルス対策に当たりたいと述べた。

予防接種
川上一恵理事は、これから冬を迎えるにあたってインフルエンザの予防接種を勧めるとともに、定期予防接種などワクチンで予防できる疾患(VPD)はワクチンを接種するよう都民に呼び掛けた。

東京都医師会は10月13日(火)に定例記者会見を行い、今冬の季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症同時流行時の医療体制等についての見解を示した。

国民、都民のために医療を提供し、地域医療に貢献してほしい」と会員の積極的な協力を求めた。また、診療を時間的・空間的に分けることが難しい医療機関は、近くの医療機関を紹介してほしいと述べた。



平川副会長



尾崎会長

かかりつけ医を中心とした今冬の新型コロナウイルス対策
尾崎会長は、「今冬はインフルエンザと新型コロナウイルスが同時流行する可能性があるため、地域に根差したかかりつけ医を中心とした対策が重要になる。保険診療をしている以上、

は1000床規模の専門病院として稼働する施設の設置を提案していきたい」と述べた。



角田副会長

インフルエンザと新型コロナウイルスの同時流行時に向けた対策

感染リスクを高めやすい7つの場面

- 1 飲食を伴う懇親会
- 2 大人数や深夜におよぶ飲食
- 3 大人数やマスクしないの会話
- 4 仕事場や休時間
- 5 車内生活(車など)
- 6 激しい呼吸を伴う運動(激しい呼吸器運動)
- 7 屋外活動の移動(車での移動や歩行など)

底流

記者会見とホームページは情報発信の要である

記者会見で多くの報道関係者の興味を引きつけるテーマを提供し、ホームページでそのテーマを掘り下げ、正確で時宜を得た情報提供を行っていくことで、東京都医師会のブランディングを推し進めていくことが重要だ。

東京都医師会では広報活動の一つとして、概ね2カ月に1回の記者会見を平成27年9月17日から令和2年2月12日までの約4年半で計21回開催してきた。今年は新型コロナウイルスの感染拡大による医療崩壊を防ぐための対応、都民への正しい知識の提供、東京都の医療提供体制をさまざまな側面から支えるための提案、行政への要望などを中心に、2月27日から9月17日まで

の7カ月間で計10回の記者会見を行い、多くの報道関係者が参加し熱心な質疑応答が行われた。新型コロナウイルス感染症流行以前の記者会見に参加した報道関係者は4〜16社だったが、2月27日以降の記者会見では12〜36社が参加し、NHKをはじめ民放のテレビカメラも多く動員されていた。記者会見の様子は東京都医師会ホームページ上で公開され

ているが、コロナ感染症流行期には動画再生が最大9900回を超えた。また、記者会見における会長、副会長の発言がマスメディアに取り上げられ、報道番組で使用された会長の映像がYouTube上で9万回近く視聴されている。多くの報道番組で会長、副会長はさまざまなコメントを求められた。

東京都医師会では都民への医療的情報発信と医師会会員への情報発信を行う一助としてホームページを公開し、2カ月に1回その内容をホームページ委員会で検討している。ホームページを作成するに当たっていくつかの基本姿勢がある。まず、当たり前のことだが、内容をきちんと精査して正しい情報を発信し更新すること。次に、最近利用が増えているモバイル端末でも見やすく、しかも快適な検索ができるように、無駄な画像は控えて読みやすい内容にする。また、ホームページ上からフェイスブックやツイッターへアクセスできるようにし、さまざまな視点から最新の情報が得られるように工夫している。

新型コロナウイルス感染症に関する都民啓発の一つとして、ホームページ上に「一緒に新型コロナウイルスと戦い

ましよう。東京都医師会は医療を通じて皆さんを応援します。感染を防ぐためにニューライフスタイルの実践を」というメッセージを掲載するとともに、「都民の皆様と考える、これからのライフスタイル」を提案している。また、医師向けにはかかりつけ医の外來診療の目安、保険適用に関する情報、嘱託産業医のための新型コロナウイルス感染症対策のヒントなどをさまざまな資料を掲載している。

ホームページのアクセス数は昨年まで1カ月に4万人前後で推移していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大が始まった今年の2月頃から徐々に増加し、5月には15万人を超えた。昨年の4月と5月は1日に1500人前後のアクセスがあったが、今年11月は1日に15000人前後のアクセスがあったが、今年11月17日

には10万人、5月13日は2万人のアクセスがあり、その後1日3〜4千人のアクセスが持続し、昨年の2〜3倍となっている。新型コロナウイルス感染症の拡大と記者会見がホームページのアクセス数の上昇に関わっていることは間違いなく、同時にコロナ関連以外のコンテンツへのアクセスも増えている。

今後には記者会見でさらに多くの報道関係者の興味を引きつけるテーマを提供し、またホームページでそのテーマを掘り下げ、他のコンテンツに関する被害事例の情報をできるだけ多く収集するため、改めて周知をお願いする。

東京都では、健康食品との関連が疑われる健康被害の情報幅広く収集し、分析・評価を行っている。健康食品に

関係する被害事例の情報を行って、健康食品に

関係する被害事例の情報を行って、健康食品に

地区医師会長連絡協議会報告

令和2年10月16日(金)

◎都医からの伝達事項

(1) 東京都におけるインフルエンザ流行期に備えた体制整備について

東京都では、インフルエンザ流行期に備えた体制整備の

ため、発熱患者の診療等を行う医療機関を「診療・検査医療機関」として指定することになった。医療機関はこの指定を受けることにより、発熱外来診療体制確保補助金や、個人防護具(PPE)の提供といった支援を国から直接受け取ることができる。

地区医師会感染症担当理事連絡会で説明し、東京都福祉保健局からも都内全医療機関に案内が配布されているので、多くの会員に協力してほしい。

(2) インフルエンザ定期予防接種に係る周知用広報物(ひな形)について

東京都では、高齢者等に対して早期のインフルエンザ定期予防接種を促すため、医療機関で掲示できるポスターのひな形を作成した。各区市町村で補助が決まった場合に、区市町村名や地区医師会名等を加筆・修正できるので、活用してほしい。

(3) 東京都医師会公衆衛生委員会のアンケート調査の実施について(都内から) 医におけるがん検診と新型コロナウイルス感染症に関するアンケート調査

本会公衆衛生委員会は、都内におけるがん検診の充実のために協議している。昨今のコロナ禍では、がん検診の運用にも大きな支障をきたすこ

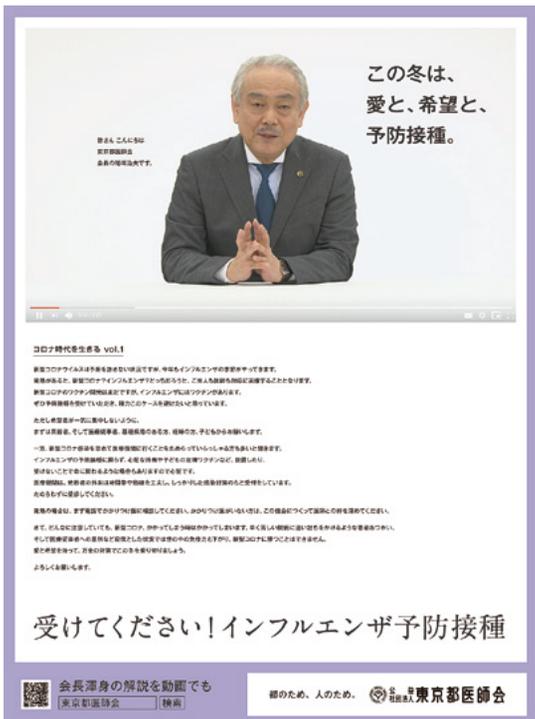
とが懸念されていることから、かかりつけ医におけるがんや検診への理解度、新型コロナウイルス感染症による検診への影響を把握するために、全会員を対象にアンケート調査を実施している。多くの会員に協力してほしい。

(4) 新型コロナウイルス感染症に係る行政検査の取り扱いについて

唾液を用いたPCR検査のみに限られていた集合契約について、新たに鼻腔拭い液が追加されたことや、インフルエンザの流行期に備え、今後すべての新型コロナウイルス検査が行政検査となる。

(5) 介護関係者のための新型コロナウイルス感染症対策特別講

型COVID-19感染症対策特別講座(特別講演)の開催について



この冬は、愛と、希望と、予防接種。

COVID-19 新型コロナウイルス感染症対策特別講座(特別講演)の開催について

受けてください!インフルエンザ予防接種

会長自身の解説を動画でも
東京都医師会

152 みどりの広場

今後の抱負について

日本医師会副会長 猪口雄二



私は6月27日の日本医師会代議員会において、中川新会長より副会長に選任・選定していただいた。応援していただいた東京医師会の皆様には心より御礼申し上げます。また、新任の日本医師会役員としてその職責の重さに身の引き締まる思いである。

私は江東区で父の跡を継ぎ、32歳から小規模の病院を運営してきた。地区医師会では20年間理事、10年間監事を務めさせていただいた。また平成29年より全日本病院協会会長を務めており、中央社会保険医療協議会委員、社会保険審議会医療部会委員も拝命させていただいた。

この度、中川会長より病院の立場で副会長に立候補するようにお誘いを受け、ご一緒させていただくこととなった。日本医師会では医療政策が担当であり、山積みの難問に対応することが求められて

いる。まず、超高齢少子社会における医療費の問題がある。日々高度化する医療を確実に皆保険の中で提供するために、より洗練された医療制度の構築が必要である。そのためには、高度な医療を提供する医療機関と日常の医療を提供する医療機関（かかりつけ医、総合医等）の機能分化が重要と考える。そしてこの問題には、医師需給や卒前卒後

教育という大きな課題が関連する。また、長期化する新型コロナウイルス感染症については、解決しなければならぬ問題が次々浮き上がる。おそらく消滅しないことを前提とした、ウィズコロナ禍における医療提供体制の整備が必要となる。そのためには、医療計画における新興感染症への対応を新たな事業として確立する必要があり、地域医療構想においても現実的な考え方を入れ込む必要がある。

医師の働き方改革については、兼業・副業の在り方を含め地域医療、特に入院医療機関が存続できる制度を作らなければ、地域医療の崩壊を招くことが危惧される。このように、日本の医療政策の構築には、克服しなければならぬ問題が多い。医療提供体制の整備、地域医療のさらなる充実のためには、診療所や病院が一丸となって努力する所存である。東京医師会の皆様には、多くのご意見、ご指導等いただいたであろう、心よりお願いする次第である。



スパジアムジャポン全景

スパジアムジャポン 東久留米で温泉?

趣味の散歩

むこうで、美人の湯とも言われています。我が家から歩いてわずか15分のところにある「平成の名水百選」に選ばれた東久留米の湧水と同じ水源を使用しています。ここに昨年、関東最大級の温泉施設「スパジアムジャポン」がオープンしました。この売りは「平成の名水百選」に選ばれた東久留米の湧水と同じ水源を使用しています。ここに昨年、関東最大級の温泉施設「スパジアムジャポン」がオープンしました。

- ①浴槽のふたを開け、床や壁にシャワーをかけ浴室内を温める
②手、足、体（心臓に遠いところから）に、かけ湯をする
③ゆっくり湯に浸かりながら舌下で体温を計る。38度まで上がるのが理想。
④入浴後は「10〜15分」保温する

会員の弔慰・見舞金支給

一 就業中の偶然な事故による死亡・後遺障害 一

本会では福利厚生の一環として、東京都医師会A会員・B会員の先生が就業中に偶然な事故(病気は対象外)によって傷害を被った場合の補償として、本会を保険契約者、会員を被保険者、本会を保険金受取人とする保険契約を締結しております。

本保険は、昨今の災害派遣における被災地での医療行為に際し、地震や災害等の事故で後遺障害が残った、あるいは不幸にしてお亡くなりになった場合に、弔慰見舞金規定に則り、以下の保険金が支払われるものです。

万が一そのような事故が発生した場合には、必要書類を本会宛にご提出いただき、本会が保険会社に保険金請求を行い、保険金を受領いたします。本会が受け取った

保険金は直ちにご本人またはご遺族に弔慰見舞金として支給させていただきます。死亡事由が下記に該当した場合には、本会までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

Table with insurance details: 傷害総合保険, 偶然なケガによる死亡・後遺障害50万円, 令和2年11月1日から1年間, 損害保険ジャパン株式会社, 東京都医師会 総務課, TEL: 03-3294-8830

知っていますか?

CRISPR-Cas9 (クリスパーキャスナイン)

遺伝子を効率良く改変できる「ゲノム編集」の中で、最も普及が進んでいる技術。DNAの塩基配列を狙った部分で切断し、挿入、置換できる。従来の技術より高い精度で簡単にできるため、がんなどの遺伝子治療や創薬、農作物の品種改良に応用が進んでいる。もとになった配列「クリスパー」は石野良純九州大教授が発見した。

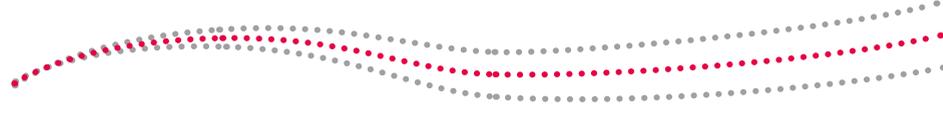
掲示板

沈みゆくアメリカ覇権 止まらぬ格差拡大と分断がもたらす政治 中林美恵子 著



こんな経歴の人が日本にも居たのかと、驚愕を覚えさせる著者のアメリカを徹底分析した新書である。アメリカの予算補佐官を10年間務めただけあって、議会の内部事情を細部に渡り知り尽くしている。アメリカ国家公務員として議会で働いた日本人唯一の人物である。アメリカ大統領選を見据えて、共和党と民主党の違いを最初に表で示しているのは、両党の違いを俯瞰できている証拠であろう。さらに、アメリカのリーダーシップの陰りとして、アメリカ国内で若者が脱資本主義へ向いていることを言っている。このことが、日本へ多大な影響を及ぼすことに著者は警鐘を鳴らしている。日本パッシング(無視)が起こらないよう、アメリカ大統領選挙の重要性を理解するために役に立つ本である。バイデンのアクセス腫である息子、中国をターゲットとした国防権限法など、興味深い項目もみられる。

発行▼小学館 価格▼860円(税別)



渋谷区医師会

丸岩博文

渋谷駅のトイレ赤ちゃん出産事件

「先生、大変です。駅で赤ちゃんが産まれました。すぐ来てください！」

私が渋谷の駅ビルで開業して4カ月が過ぎた平成16年11月末の寒い日でした。渋谷駅新南口のトイレで赤ちゃんが産みおとされたのです。

状況がよく飲み込めないまま、診察中の患者さんにちょっと待ってもらおうよう伝え、呼びに来た警備員と一緒にエスカレーターを駆け上がって行きました。駅長室へ入ると部屋の真ん中には血の付いたジーンズをはいた若い女性が、タオルに巻かれた赤ちゃんを抱っこして座っています。貧血のためか顔は蒼白く、声をかけても少し頷くだけで意識朦朧としていました。赤ちゃんは全く泣いておらず、唇は紫に近い薄い紅色だったように思います。臍の緒はどうやって切ったのでしょうか、途中でちぎれていました。壁にへばりついて動けない駅員さん達に救急車を呼んでいることを確認し、部屋の温度を上げてもらうようお願いしました。とにかく隣の内科の先生にもすぐ来てもらうことと、点滴セットを持って来るよう同行させたスタッフに伝えました。幸いにも赤ちゃんは呼吸が安定していたのでしょ。背中をさすって暖めながらたたくと、何とか弱々しい泣き声をあげてくれました。寒い日でしたが低体温症にもなっていないかたよう。整形外科医の私としては、こんな状況は学生時代にはもちろん、救急病院でも経験をしたことがありません。何をどうして良いのか分からず、混乱した頭の中で産婦人科の実習をもつと真面目にやっておけば良かったと後悔していました。

駅員さんの話では、女性は20歳。産婦人科にはかかっておらず、親にも妊娠のことは話していなかったそうです。出産のあった駅のトイレは血だらけだったようですが、たった一人で産んで、どうやって臍の緒を切ったのか全く想像できません。産婦人科の友人に聞いたところ、臍の緒は手では絶対に引きちぎれないし、もしクランプしないで切ると臍帯出血による新生児の出血性ショックもありうるとのことでした。恐らく胎盤も出て臍帯の血流が止まった後に、持っていた何かで臍帯をちぎったのでしょ。

母親の点滴をすませ、赤ん坊の顔色も随分落ち着いた頃に救急車のサイレンが聞こえてきました。これで助かったと思い、到着した救急隊員にどこでもいいから早く搬送するように頼んだところ、隊員から「先生、アプガースコアは何点でしょうか?」「知るかそんなもん! それより早くつれてってくれ!」と叫んだのでした。

それからクリニックに戻り、待たせておいた患者さんの診察を終える頃にはもうへとへとでした。しばらくして母子ともに無事であったという連絡がきて「良かった」と安堵したとともに、自分とんでもない所で開業したのかもしれないと不安になったのを覚えています。

あの赤ちゃんも今年で16歳です。自分の生まれた場所を知っているのでしょうか。いや、きっと知らされていないと思います。幸いそれ以降、渋谷駅でのお産はありません。

(渋谷区医師会会報 令和2年1月号から抜粋)

北多摩医師会

鎌田康太郎

いつもニコニコ現金払い…

まんが『はじめ人間ゴン』で、狩猟したマンモスを里で売り、大きな石の貨幣をゴロゴロ転がして帰ってくるシーンがあった。また月末に給料袋を鞆に入れて帰宅する主を、ご馳走を用意して待っていた昭和の家庭風景。某大企業のボーナス運搬途中で襲われた3億円事件。そのように、かつては現金が経済の媒体であった。その後、給料は振込となり、プリペイドカード、クレジットカード決済、さらに仮想通貨へと変化を続け、ついにキャッシュレスの時代が近づいているような趨勢だ。キャッシュレスは便利だが、本当に安全であろうか。

誰がいつ、どこで、いくら、何にお金を使ったかなどのすべての情報がガラス張り、さらに記録が残ることになる。ちょっと小銭が入ったから、内緒で贅沢! そんなことすらできなくなる。そして趣味や嗜好品の傾向までが分かってしまう。簡単便利と引き換えに、本当に重要な個人情報丸裸にされてしまうのではないだろうか。

(北多摩医師会報 平成31年3月号から抜粋)



入間基地航空祭 2017

練馬区医師会 大野邦彦

2017年11月3日、文化の日に開催される入間基地航空祭、6機のブルーインパルスが13時30分に離陸し、曲技飛行を披露。暑いくらいの晴天の中、青空に映えるブルーインパルスは、やっぱりカッコよかったです。

無 声 拜 聴

角度を「..る」

「次の言葉に続く述語を入れなさい」といかにも小学校低学年で出そうな問題だが、角度の後に続く述語(動詞)といえば「角度を測る」や「角度を求める」などがもっぱらである。が、あるスクープ記事から外交問題にまでなった新聞社への批判記事から、「角度をつける」という言葉遣いが知られるようになった。恐ろしいことに、ネットで「角度をつける」で検索すると某新聞社の実名が直ぐにヒットしてしまうのであるが、意味は「報道機関としての主張の方向性をつける」だといふ。

しかし、新聞社に勤めている友人から「記事はあくまで真実であり、多少の表現はあくまでも求める読者に付度して行っているに過ぎない」と聞いた。つまり記事は真実、角度をつけるのは読者のためだ。自身は多少違和感を覚えたが、その道のプロの言うことであるからそうなのであろうとするしかないと自分に言い聞かせた。

ところで先日、東京都医師会長の会見記事で「安倍政権」「政府無策」などの言葉が散りばめられ、政治的方向性があるように報道された。会長を含め医師会で仕事をすすべての医師は、国民の生命・安全を守る以外のこと考える余地はない。一方で新聞社も「真実と読者のため」にしか考える余地はないのだから、おおよそメディアの記事を読むときは多角的に読み、読者としてリテラシーを発揮していく以外にないようである。

(山本純)

新型コロナウイルス結膜炎 (COVID-19)

中国武漢で、新型コロナウイルス感染症病棟に、ゴーグルなしで立ち入った中央政府派遣の人員が、肺炎症状を呈する前に、結膜炎を生じたとの報告があって以来、世界各地から、「新型コロナウイルス感染症のひとつの症状として、結膜炎を発症することがある」という報告が多数見られるようになってきた。

【発症頻度】

肺炎患者の1,099人中9例(0.8%)に充血をきたすという報告がある。同じく肺炎患者の2/72(2.8%)～12/38(31.6%)に結膜炎をきたすという報告もある。

【共通の所見】

多くは両眼性で、結膜充血、水溶性(漿液性)眼脂はほぼ共通所見と思われる。流涙、結膜浮腫、眼瞼腫脹なども多く見られる。濾胞性結膜炎をきたす例や、耳前リンパ節腫脹をきたす例もある。

【実際の診療では】

結膜炎は、肺炎発症の2～3日前の、すでにウイルスを排出する時期から生じ得るため、診療する場合、他の患者と時間的空間的間隔を取るよう再来院もしくは外での待機を促す。

新型コロナウイルスによる結膜炎を問診などから強く疑う場合、院内外での診療にかかわらずサージカルマスク+フェイスシールド(ゴーグル)+キャップ+プラスチックガウン+二重グローブなどの標準防具+飛沫・接触感染予防策を講じる。

また、細隙灯顕微鏡にも飛沫感染予防のため、シールドをつけ診察する。(文責：吉見裕美子)

感 染 症 豆 知 識

東京都医師会
感染症予防検討委員会

医師国保からのお知らせ

家族の加入について

～住民票で同一世帯の家族の方は、「全員一緒」に加入してください～

健康保険や他の国保組合に加入している方を除き、
同一世帯の家族の方は、区市町村国保に加入できません。
ぜひ医師国保に加入してください。

詳しい内容、申請方法はホームページをご覧ください。www.tokyo-ishikokuho.or.jp

東京都医師国民健康保険組合 ☎ 03-3270-6433 (業務課)

医師と医師会を結ぶ 情報紙

都医^{ニュース}NEWS

2020

Vol.
657

地区医師会長からの一言

ウィズコロナ

板橋区医師会長 齋藤英治



板橋区医師会は昭和22年に社団法人として発足し70余年、平成25年より公益社団法人となり、令和の時代を迎えました。諸先輩方のお大変なご苦労、ご努力により、板橋区医師会はこれまでに多くの事業を展開してまいりました。都内唯一の医師会病院はもちろん、地域包括支援センター、在宅ケアセンター、訪問看護ステーション、療養相談室をすべて集約した板橋区医師会在宅医療センターを開設。特に療養相談室は、モデル事業から開始し、医療、介護の連携の拠点として注目されました。また、平成16年より「板橋区認知症を考える会」を立ち上げ、もの忘れ相談医の養成や、専門病院との連携、区民への啓発などを行ってまいりました。その他、多職種が参加できる医学会の開催、在宅療養ネットワーク懇話会の創設、在宅医療での主治医・副主治医制の導入、さらには子育て世代の支援事業なども実施しています。ここではすべてを書き尽くせませんが、これらの事業を継続し、時代に即して発展させていくことが、まずは私に課せられた大命題です。

板橋区内には2つの大学病院、2つの旧都立系の病院、それ以外に医師会病院を含め36の病院があり、病院機能が充実している区の中での医師会病院の在り方がまさに問われているところです。これまでは急性期病院として運営してまいりましたが、医師会病院のある高島平は、高齢者数、高齢化率、後期高齢化率ともに板橋区内で最も高い地区であることから、本年度中に地域包括ケア病棟22床を稼働する予定となりました。これにより、ポストアキュート、サブアキュート、在宅復帰支援を必要とする患者の受け入れが積極的にできるようになります。高島平地区では、在宅医療センターと医師会病院が一体となり、2025年に向けてスムーズな医療連携のさらなる強化や、地域の

医療・介護連携を強固にしていくことが重要な課題でした。

ところが、今年の初めからの新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の蔓延化により、これまで築かれてきた医療連携や地域の人々の繋がりが分断され、病院の機能としても、新型コロナウイルスのPCR陽性患者の入院は、古い構造の病床での受け入れは如何ともし難いのが現実でした。多くの2次救急の病院でも、3月、4月は肺炎の疑いの救急患者の受け入れすらもできにくい状況で、感染症指定あるいは感染症診療協力医療機関に過重な負担をかけてしまうこととなりました。

これまでは、感染症対策として新型インフルエンザウイルスへの対策が中心に話し合われてきましたが、恐らくは2009年の新型インフルエンザ(H1N1pdm)のイメージから、我々の中には少し油断があったのかもしれませんが、特にCOVID-19により日本のPCR検査能の非力さが露呈し、早期の確定診断ができないということが感染症診療にこれほど影響するということを嫌というほど教えられました。しかし、現在COVID-19のPCR検査が確立され、抗原迅速検査も普及してきて、かかりつけ医としても感染対策を万全にすれば鑑別診断もできるところまでできました。COVID-19との戦いはまだしばらく続くことが予想され、ウィズコロナの中で、我々かかりつけ医こそが正しく恐れながら戦っていかなければならないのでしょうか。特にこれからの季節性インフルエンザの流行時期には、かかりつけ医がどのようにゲートキーパー機能を果たしていくかの体制づくりが重要と考えます。

医師会長として浅学菲才の身、今後とも皆様のご指導をよろしくお願いいたします。